浜名湖魅力発信隊交流会の報告

■1/31(土)浜名湖魅力発信隊交流会

湖西市鷲津の「浜名湖レンガ館」にて

浜名湖の地域資源を活かして活動する団体、企業などが集まり環境だけでなく、観光、歴史、文化、農林水産、まちづくりなど連携により地域活性化を目的とした交流会を開催しました。この魅力発信隊は、静岡県西部地域政策局が主催して６０名ほどの方々が参加しました。

基調講演は、大阪の水都賑わい創出実行委員長で、日本初のリチウム電池で走る観光船を就航、大阪の名物の土産品の仕掛け人であり、琵琶湖のヨシを紙として再利用する環境ビジネスのモデルをつくった伴ピーアール㈱伴一郎社長です。これらの取組みを企大阪の歴史・文化を活かしながら企業や市民団体、行政と連携して実践しビジネスモデルにも導いている事例を紹介していただきました。

今年度、県が募集した「浜名湖連携活動モデル事業」の事例報告として、①サイクリングや船でめぐる遠江八景、②「奥深い浜名湖ロマン旅」モニターツアーの連携事業の報告がありました。

この交流会のテーマは、「連携」。全体での意見交換では、参加団体の紹介を行い、活動の中でより発信力を高めるために連携が必要であることが話し合われました。

浜名湖魅力発信隊もホームページで活動団体が紹介されていますが、半数以上が当ネットワークのメンバーであります。また、当日参加された団体は４０団体で、うち当ネットワークの登録団体は約半数の１９団体であった。

2/7(土) 浜名湖のアマモで育てた“野菜”を収穫！

夏７月に浜名湖岸で回収した「アマモ」や竹の粉を畑に入れて９月に村櫛町の畑で種まき。大根・白菜・人参が大きく育ち、観察をしながら、収穫しました。白菜は秋に上陸した台風の影響で半分以上がだめになってしまいましたが、大根が立派に成長し、みんなで収穫を楽しみました。

今年は、アマモだけでなく、アマモに竹の粉を入れたものを堆肥として試してみました。最初の成長は良かったが、追肥が必要などの課題も見えてきました。

大根100本、白菜４０個と多くの人参が収穫できました。なお、堆肥は宮本肥料店さん、竹の粉は丸大鉄工さんのご協力でした。

【事務局から】 はまなこ環境ネットワーク10年に感謝！

10年間ありがとうございました。５月にはネットワークの総会を予定しています。10年を経過し、まわりの状況が変化しています。当ネットワークのあり方を見つめ直す時期に入っているかと思います。みなさんのご意見をお聞かせください。

はまなこ環境ネットワーク 広報誌

はまなこ環境通信

第24号

発　行／はまなこ環境ネットワーク
発行日／平成27年3月21日
事務局／NPO法人地域づくりサポートネット
浜松市中区常盤町133-13　TEL053-458-3480
Eメール　info@shizuoka-t.net

はまなこ環境ネットワーク発足10周年を迎えて

平成17年３月に「はまなこ環境ネットワーク」が設立されてから、静岡県をはじめ多くの団体に支えられて10年になりました。

当ネットワークの活動方針としては、個々の団体・企業の活動が基本としつつ、“縁側”でつながり緩やかな連携で取組むことで、個々の団体では解決できない共通課題や相互に補完ができるような活動を支援することなどを掲げています。

数々の啓発活動、団体相互の情報交換、団体の意見をまとめて提案・提言

振り返ってみますと、当初は浜名湖の自然や生き物、そこに人々の生活や産業がどのように影響を与えているかを知ることからスタートしました。また、浜名湖周辺で活動する会員の思いを互いに理解し合う機会も必要でした。

活動を通して、会員相互の連携を図りネットワークとしての求心力を高める必要性を感じたことから、会員の活動を包括できる考え方として“ラムサール条約”登録湿地の理念の１つ「**ワイズユース**」を取り入れることにしました。

さらに、より地域に密着した活動とするため、アマモやアオサの漂着物を肥料化するための連携に取り組みました。かつてこの地域の住民が浜名湖と一体感を持って生活していた浜名湖地域の循環型社会の仕組みを参考にしています。

最近では、湖の周辺地域の中心となって活躍している会員、魚や鳥、水環境、農業などの専門分野を中心に活動している会員がそれぞれの得意な分野で力を発揮しています。

今後はこれらの活動を中心として有機的な連携を図り、さらに大きなパワーで「**豊かな浜名湖**」を目指すことが出来ればと思っています。

結びに、これまでの10年間数多くの人の参加・交流・支援によりすばらしい連携ができたことに感謝しております。

2015年3月

はまなこ環境ネットワーク
代　表　　芥川 知孝

はまなこ環境ネットワーク10年の歩み～設立準備から～

当ネットワークは、浜名湖流域の住民、団体、企業等による環境保全活動の促進、協働して活動する場を創出することを目的に平成 17 年３月に設立。その発足の経緯から１０年の歩みを年表形式で紹介します。

■はまなこ環境ネットワークの歩み

平成13年度～	●きれいな浜名湖づくりシンポジウム（静岡県主催・毎年開催） ●きれいな浜名湖発信事業・ごみを捨てさせない仕組みづくり事業（静岡県主催） ※団体相互の連携で浜名湖環境保全の共通課題の解決が議論される
平成16年度	●浜名湖花博2004が開催 ●静岡県と環境保全団体・企業の「はまなこ環境ネットワーク準備会」 ※組織化の検討
平成17年3月	●はまなこ環境ネットワークが発足（静岡県自然保護課が事務局）、登録団体の募集開始 団体の情報発信、交流事業、県民啓発事業、調査研究などを行う
平成20年4月	●ネットワークの事務局が県から民間（NPO）に移管（登録団体59団体）
平成20年度	●浜名湖のラムサール条約提唱、登録に向けた勉強会がはじまる 団体の活動目標を「ラムサール条約」ワイズユース（賢明な利用）
平成22年10月	●浜名湖がラムサール条約暫定候補地に指定（全国192湿地、県内4箇所のうち1箇所） ●「天竜川・浜名湖フォーラム2010」を開催（生物多様性×ラムサールがテーマ） 名古屋で開催された「COP10」の開催と併せてフォーラム
平成23年12月	●浜名湖ラムサール提唱者：ネットワークの副代表　宮川潤次（静岡文芸第教授）が逝去
平成24年度	●アマモ再利用プロジェクトが始まる（舘山寺×村櫛×浜名湖）
平成25年度	●ラムサール条約の普及啓発「浜名湖ラムサールプロジェクト」・シンポジウム アマモ堆肥の試作品が完成（肥料会社での販売がはじまる） ●アサヒビールからアマモを回収・利用するアマモプロジェクトの寄付金をもらう ●浜名湖魅力発信隊事業がスタート（静岡県西部地域政策局）
平成26年度	●浜名湖花博10周年「浜名湖花博2014」が開催 ●里山×里海の資源を活かす事業（アマモ・アオサ＋森林活用＋竹林活用＝環境保全）
平成27年3月	●はまなこ環境ネットワーク設立10年を迎える（登録団体82団体）

3/3　浜名湖環境保全団体の意見交換会

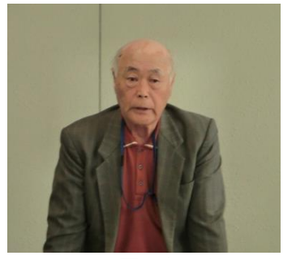
３月３日（金）湖西市民会館において、浜名湖の環境保全に取組む団体と静岡県、浜松市、湖西市の環境保全の担当者が集まり、これからの浜名湖の環境保全活動について熱心に意見を交わしました。

静岡県からは浜名湖を取り巻く状況が変化していると説明し、今後の環境保全に対する施策を模索していると述べました。

■参加団体と主な活動

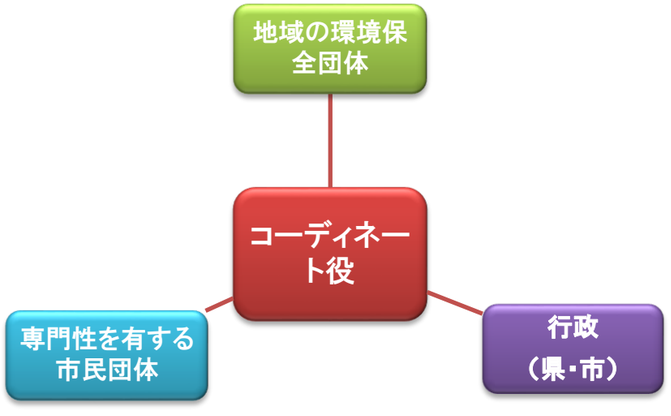
団体名	環境保全に関する主な活動
はまなこ環境ネットワーク	浜名湖の環境啓発事業、団体の情報発信や交流事業 アマモを利用した循環型社会を目指すプロジェクト
ＥＭ倶楽部／湖西	EM菌を活用した水質浄化やプール清掃、EM菌による堆肥づくりと市民農園
舞阪の自然を守る会	コアジアジサシなどが生息する環境保全の活動
湖西フロンティア倶楽部	湖西連邦の森林保全活動、今川での子どもの環境啓発など
日本野鳥の会　遠江支部	野鳥の探鳥会や野鳥の生息する環境保全のための調査
NPO法人はまなこ里海の会	アマモ場や水産資源を守る観察・体験等や環境と観光の連携活動
NPO法人むらちゃネット	地域の耕作放棄地の活用（農業利用）を通じた環境保全
静岡県　　くらし・環境部　環境局　自然保護課 市　　浜松市環境部　環境政策課、湖西市環境部　環境課	

参加団体からは、浜名湖の環境保全の取組みについて紹介がありました。意見としては、浜名湖を次世代に繋げていくために、「環境を守る」ことの必要性が話し合われました。



浜名湖の環境保全に対しては、①地域の担い手団体、②専門性を有する活動団体の両方が必要です。また、浜名湖の環境保全には、それら多様な主体をつなぐ中間支援（コーディネート役）も必要であるという意見がありました。

そのために、行政が果たす役割も重要で、行政との協働を進めていくことが求められています。



浜名湖の環境保全の在り方